

寮生の道

(昭和五十八年寮歌)

泉進介君 作歌
島倉朝雄君 作曲

凍てつきし氷の路も溶け始め、見はるかす山に白雪消ゆる頃
集い来し百と四十の若人は故郷も親も銭もなく恃むは己の仁侠ばかり
然れども新たな舍りの恵迪は五層六刃の白亜城
夜も希望の灯は消さず、棲むは豪傑酒乱の徒
さあ来いさあ来い恵迪へ北都に築かん我等が自治寮

春 (四月)

秋 (十月)

ちよいとそこ行く新入寮生さん
明日は我身が知らねども
大酒くらって逆噴射
これぞ寮生の生きる道

ちよいとそこ行く寮生さん
尻に赤フン巻きつけて
狂喜乱舞す交差点
これぞ寮生の生きる道

まとめ

これぞ寮生の生きる道

これぞ寮生の生きる道

夏 (八月)

冬 (二月)

ちよいとそこ行く寮生さん
弊衣破帽に食糧難
両親の顔が眼に浮かぶ
これぞ寮生の生きる道

ちよいとそこ行く寮生さん
ジャンプ大会変態か
花の女子大赤面す
これぞ寮生の生きる道

(※前口上は島倉朝雄君の作による)